

■ニセコ羊蹄エリアが観光リゾート地としてめざすべき目標像(ビジョン)

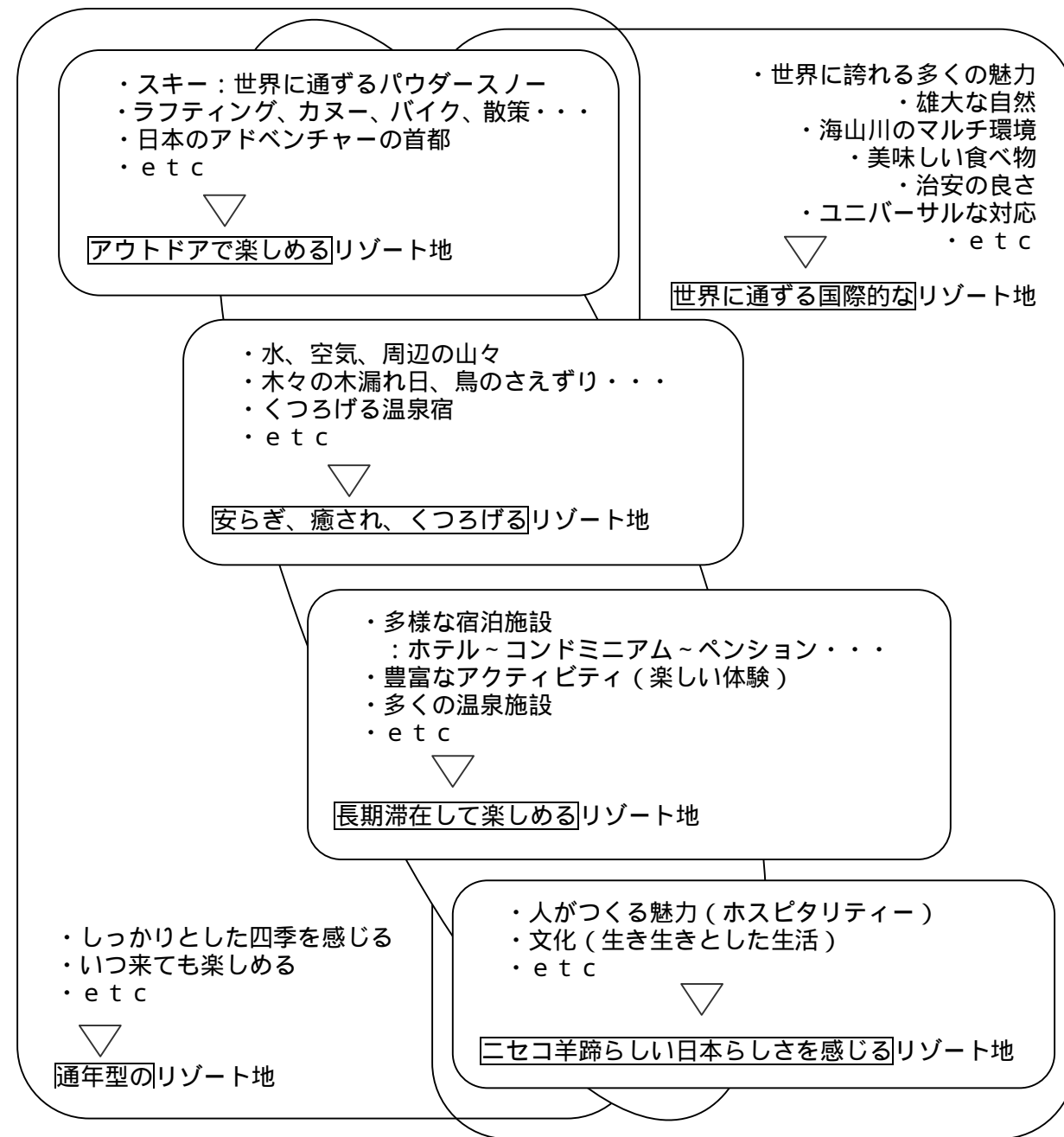
【ビジョンの性格】

地域の主役である住人にとっての“日々の活動の目標像”としてのビジョン

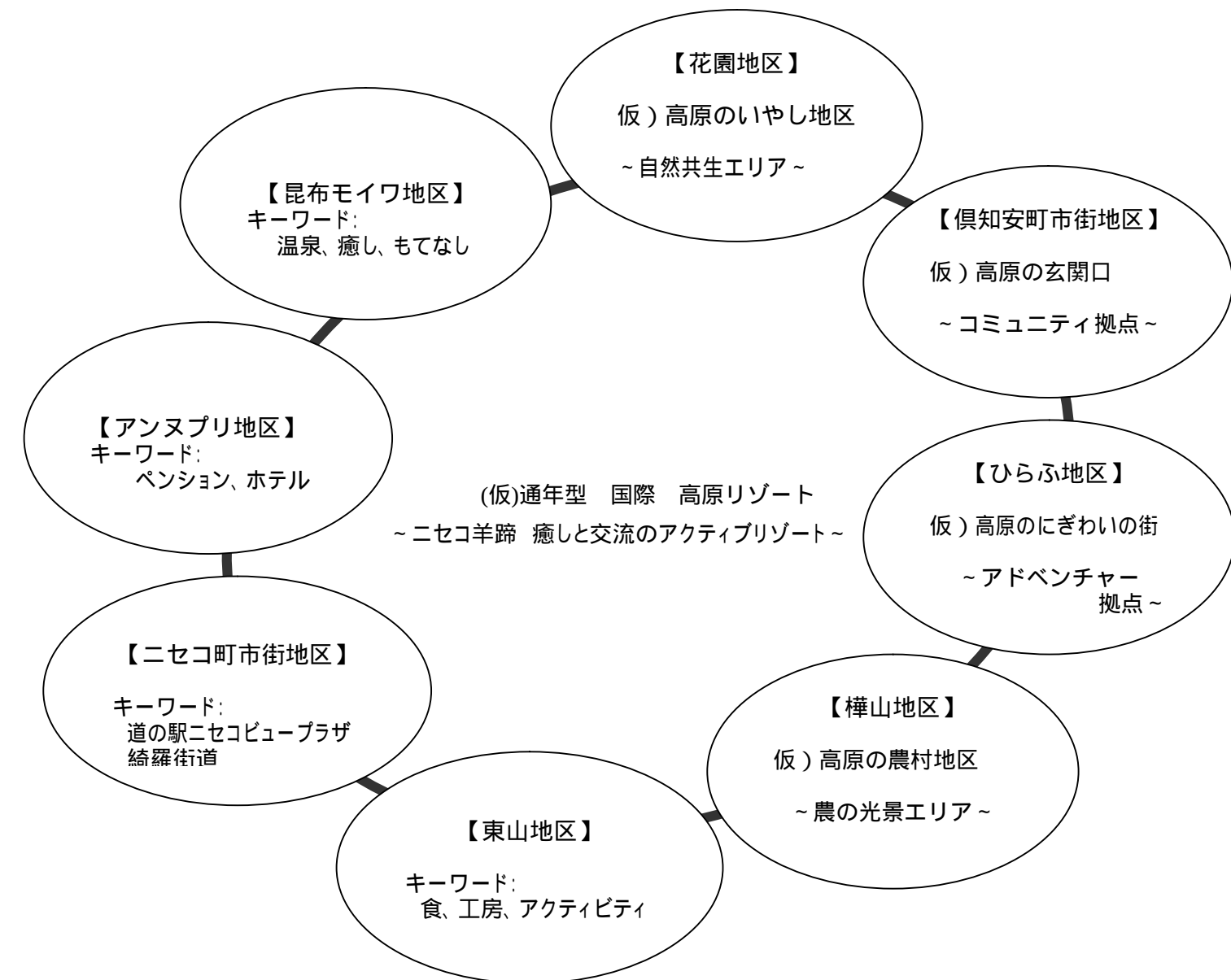
ニセコ羊蹄エリアの来訪者に対しての“魅力の訴求像”としてのビジョン

『地域で頑張れる目標が実感でき、魅力を感じて訪れたいリゾートビジョン』

【ビジョンの方向性】：ニセコ羊蹄エリアの多様な魅力と可能性を表わす



【地区別の目標像】：ニセコ羊蹄エリアの各地区の性格、特徴と担うべき役割を踏まえた目標像



* 今回の検討はニセコ羊蹄エリア全体について行われましたが、調査対象は倶知安町でしたので、ニセコ町部分については最終想定案ではなく、キーワードのみの記述としてあります。

今後、両町の連携による「観光振興計画」の策定を通じ、エリア全体のビジョンの共有化や具体化に取り組んでいくことが求められます。

【基幹形成への目標像】

仮）「通年型 国際 高原リゾート」：カテゴリー＆クラスとしての国際標準をめざす

【独自性への目標像】

仮）「ニセコ羊蹄 癒しと交流のアクティブリゾート」：多様な過ごし方、楽しみ方の提供をめざす

地区	目標像	■ 地域の現状と課題・可能性	■ 取り組みの方向	■ 地域における今後の取り組み
ニセコ羊蹄エリア全体 1 / 5	仮）「通年型・国際・高原リゾート」 ～ニセコ羊蹄 癒しと交流のアクティブリゾート～	（一）地域の魅力づくり ： 環境～サービス～癒しと交流		
		○ エリア内に多様な魅力を持った地区が点在している ・ スキー場等高原エリアから市街地への移動ニーズ ・ 地区間の相互連携利用ニーズ ・ 多様な楽しみのフィールドの創出 ・ 魅力ある地域内散策～回遊ルートの準備 ○ 地区間の移動の不便さ 交通アクセスの改善が必要 ・ 便数・ルート・接続性等使い易く ・ 表示、案内等わかり易く ・ 地域内を様々な交通手段で利用し易く	□ 地域内循環～地区間の回遊性を向上させる 地域内循環交通システムの事業化 エリア内で走っているバスを一本化させ、リゾートエリアと中心市街地を結ぶ便利で外国人にもわかりやすい公共交通バスの先進的システムの導入を目指す。 フットパス～回遊路のネットワーク化を進める ハイキング、サイクリング、歩くスキー、馬車、馬そり、マウンテンバイクなどが利用できる散策の道を整備し、地域内外のフットパスのネットワーク化を目指す。	○ 地域内循環交通システムの事業化に向けて ・ 行政、バス事業者、関係する民間組織により、新交通システム準備会を設立し、具体的な事業化に向けて準備を進める。（行政・民間） ・ ニセコ町のバスシステム（ふれあいシャトル）との連携も検討する。（準備会） ・ 取り組みを推進する上での法的な規制については、交通関係の特区や地域再生制度を活用し、規制緩和措置により対応することも検討する。（行政） ・ 準備会運営及び事業化に向けた支援制度を検討する。（行政） ・ 「まちめぐりナビプロジェクト（国土交通省）」等の活用を視野に入れ、既存 IT 技術の活用による交通システムの検討を行う。（準備会） ○ フットパス～回遊路のネットワーク化に向けて ・ 自然環境と調和した魅力的なフットパスのインフラ整備やこれに伴うインフォメーション等の施設整備を行う。（行政） ・ フットパスルートの設定とフットパスの企画実施を行うとともに、他地域のフットパス活動と連携し、フットパスのネットワークを広げる。（民間） ・ フットパスルート散策において地域の自然や歴史などの説明の出来るガイドの育成（ガイドの会の設立等）を行う。（行政・民間）
		○ 現状は車優先的なまちのつくられ方、道のつくられ方 ・ 歩行者に優しい在り方への転換 ・ 歩く楽しさの見直し ○ 豪雪地帯としての雪対策の充実 ・ 安全、安心な歩行空間の確保 ・ 除・排雪の徹底	□ 歩行者に優しい安全・安心な道づくり 地区内回遊を促す歩行空間の確保 新設する道路については歩道の整備を図り、冬期間においては歩道等の除排雪を充実し、必要な箇所は融雪設備等も検討し安全・安心な歩行空間の確保を目指す。	○ 歩行者に優しい安全・安心な道づくりに向けて ・ 国・北海道・町が連携し、歩行者の回遊ルート、ニーズを把握し、歩行者優先エリア、ルートの設定を行い、重点的な整備や除排雪の充実を図る。（行政） ・ 国道、道道、町道の道路管理窓口の一本化を検討する。（行政）
		○ ニセコエリアの冬季の最大の魅力は冬のパウダースノー ○ 一方、夏はラフティング等のアウトドアスポーツ ○ これらの環境資源だけへの依存では、先行き不安 ・ 年による気象変動～温暖化の影響を受ける ・ 新たな魅力の創出の必要性 ○ 地域の魅力の発掘～再発見 ・ 夏対策～四季を通じての多様な楽しみ ・ 地域の暮らしの情景そのものを魅力的に ・ 人材育成	□ 地域資源の発掘と魅力づくり 地域の魅力学習・体験の充実 地域の魅力を学習し地域の文化を次世代に継承していく、地域に生きる魅力的な人づくりを目指す。 地域の資源を掘り起こし魅力あるものに育てる人材の育成 地域の資源を掘り起こし、魅力に繋げていく人材を育成するとともに、新しいビジネスとしての展開促進を目指す。 今あるものを工夫し魅力に繋げる取り組みの充実 ないものねだりをするのではなく、今あるものを工夫し魅力に変える取り組みを官民一体となって取り組んで行くことを目指す。	○ 地域の魅力学習・体験の充実に向けて ・ 学校教育において地域の資源、歴史、文化、産業等を見つめ直す地域学習の充実を図る。（行政） ・ 生産者、流通・加工業者、商業者、消費者等の連携による「地産地消」～「産消協働」を推進する。（行政・民間） ○ 地域の資源を掘り起こし魅力あるものに育てる人材の育成に向けて ・ 地域産業の振興に寄与する起業の支援体制の構築を図る。（行政） ・ 地域資源を活用した新たな製品や観光資源の開発、販路開拓など、地域の活性化に向けた取組を総合的に支援する「小規模事業者新事業全国展開支援事業（中小企業庁）」等の活用を検討する。（行政・商工会議所） ○ 今あるものを工夫し魅力に繋げる取り組みの充実に向けて ・ 行政同士、民間同士、行政と民間など広域的に連携し広い視野で地域を見つめ直しノウハウやスキルを向上させる各種取り組みを継続的に行っていく。（行政・民間）

地区	目標像	■ 地域の現状と課題・可能性	■ 取り組みの方向	■ 地域における今後の取り組み
ニセコ羊蹄エリア全体 2 / 5	仮）「通年型・国際・高原リゾート」 ニセコ羊蹄 癒しと交流のアクティブリゾート	（１）地域の魅力づくり：環境・サービス・癒しと交流 ○ 高原のイメージと魅力的な自然環境 ○ 従前は暗黙のローカルルールの中で個別整備 ○ 豪州資本の参入による活況と問題発生への危惧 ○ リゾート地らしい魅力ある環境づくり ・ 地域全体としてのエリアアイデンティティや目標像の共有の必要性 ・ 景観向上（電柱埋設等） ・ 土地の最低敷地規模利用 ・ ルールづくり → ・ 地域にあった施設づくり ・ 統一感、地域カラー	□ リゾート地らしい魅力ある街なみづくり エリアアイデンティティを持った街なみづくり 各地区それぞれの良さがある中で、この地に根ざして生活する住人、地権者とのコンセンサスを図りながら、目標イメージ像を共有し、それぞれの地区の実情に応じた街なみルールづくり、景観づくりを目指す。 エリアアイデンティティに基づいた公共施設整備 各地区で議論されたエリアアイデンティティに基づいた公共施設の整備を目指す。	○ エリアアイデンティティを持った街なみづくりに向けて ・ 地権者や地域住民によって構成されたルール等の検討組織を立ち上げる。（民間） ・ 検討組織の事務支援や専門家による技術的な支援、ルール有効化に向けた支援制度等を検討する。（行政） ○ エリアアイデンティティに基づいた公共施設整備に向けて ・ 国・北海道・町の連携、町村の広域連携による公共施設整備を行う。（行政）
		（２）魅力を有効に伝える情報発信 ○ 冬のイメージに較べて夏のイメージ定着が弱い ・ ニセコ羊蹄の通年型ブランドイメージの定着化 ○ 情報受発信力の強化が必要 ・ 地域全体の連携による総合的で効率的な情報発信 ・ 戦略的で機動力のある情報の受発信 ・ エリア外の北海道のリゾート情報の発信 ・ 広域型＆国際型プロモーション組織の設立	□ 地域全体の連携による総合的で効率的な情報発信 機動的に活動できる観光関連新組織の結成 既存の観光協会等を母体とし、ニセコ羊蹄地域全体として対外的プロモート戦略を検討し機動的に実践できる広域型、国際型の新たな組織の設立を目指す。 リゾート情報発信基地の設置と情報発信 ニセコ羊蹄エリア内の情報だけでなく、他の地域の情報も集まるリゾート情報発信の場を目指す。	○ 機動的に活動できる観光関連新組織の結成に向けて ・ 観光関連新組織の設立準備組織を立ち上げ、専任スタッフの確保を図る。（民間） ・ 「広域・総合観光集客サービス支援事業（経産省）」の活用を検討し、新組織基盤づくりに向けた支援を行う。（行政） ○ リゾート情報発信基地の設置と情報発信に向けて ・ リゾート情報発信基地の役割を担う場として、現在整備中の「まちの駅」での対応を検討する。（行政・民間）
		（３）迎え入れる態勢 ○ 受け入れ態勢の充実 ・ 心暖かなおもてなしと交流 ・ 地域全体を意識した取り組み ・ 滞在者の準町民意識化 ○ リピート来訪・滞在へ	□ 地域一丸となった受け入れ態勢の向上 同業者、異業者間の連携によるホスピタリティの向上 ニセコ羊蹄エリアの同業者、異業者間の強いリレーションシップの確立でホスピタリティの向上を目指す。 交流に基づいた来訪者の準町民意識化に向けた取り組み 中長期滞在の来訪者に、観光客のままではなく、滞在中には準倶知安町民、準ニセコ町民としての意識を持ってもらい、地域のルールと一緒に守ってもらい、より深く地域に溶け込み、楽しんでもらう取り組みを目指す。	○ 同業者、異業者間の連携によるホスピタリティの向上に向けて ・ 同業者組合の組織化を図り、ホスピタリティの目標水準等のルール化を検討し相互連携策を検討する。（民間） ・ 異業者間を繋ぎ観光のプロモーションを行う組織化を行う。（民間・観光関連新組織） ○ 交流に基づいた来訪者の準町民意識化に向けた取り組みに向けて ・ 長期滞在者を準町民とする新たな制度等の導入を検討する。（行政）

地区	目標像	■地域の現状と課題・可能性	■取り組みの方向	■地域における今後の取り組み
ニセコ羊蹄エリア全体 3 / 5	仮「通年型・国際・高原リゾート」～ニセコ羊蹄 癒しと交流のアクティブリゾート～	(3) 迎え入れる態勢	□国際リゾート地としての受け入れ体制の向上 マルチリンガルな情報案内サービスの充実 英語に留まらず、中国、韓国、台湾等の多国語に対応したマルチリンガルなパンフレットやサイン類（ピクトグラムを含む）の充実を目指す。 外国人の生活を支えるサポートシステムの充実 いつどんな場面でも通訳によるサポートが出来る体制や、中長期滞在外国人の生活相談をサポート出来る体制の確立を目座す。 地域住民の語学力の向上 学校教育における英語教育の充実や、社会人を対象とした英語学習の充実等により、国際的リゾート地にふさわしい地元人の育成を目指す。	○マルチリンガルな情報案内サービスの充実に向けて ・国・北海道・町の連携によるサイン類等の見直しを図る。（行政） ・既存パンフレットの充実のほか、地域紹介パンフレット等を作成する。（行政） ○外国人の生活を支えるサポートシステムの充実に向けて ・バイリンガル職員の確保と生活サポート窓口を設置する。（行政） ・外国人サポートボランティア組織や NPO 法人の設立や通訳の登録制度を創設する。（行政・民間） ○地域住民の語学力の向上に向けて ・小学校からの英語教育を行うため、教育特区等の導入を検討する。（行政） ・社会人の英語学習の支援制度を検討する。（行政） ・外国人接客のマニュアルづくりと講習会の開催を行う。（行政・商工会議所・民間）
			○国際的ホスピタリティの向上 ・言葉の壁の緩和 ・地域住民の語学力の向上 ・英語だけではなく多国語化 先ず案内サイン・パンフレット類から取組む ○滞在外国人の生活支援サービスの充実 ・様々な場面・施設での通訳システム ・特に医療機関の時間外対応が急務 ・進出海外資本企業の従業員への対策も有効	○移住促進とビジネスサポート体制の構築に向けて ・行政と不動産業者との連携により空き地・空き店舗や離農農家等の情報集約・発信体制を構築し、ＩＪＵターンを促進する。（行政・不動産業者等） ○まちなか居住の推進に向けて ・住環境施策に関する計画づくりを行う。（行政） ・新幹線誘致や市街地周辺農地の土地利用の見直しも含めた市街地の土地利用の在り方～マスタープランを検討する。（行政）
		○ニセコ羊蹄エリアの豊かな自然環境を求めている移住者が多い。 ○コンドミニアム建設に代表される外国人事業者の事業展開意欲の高まりが見られる。 ○離農跡地や市街地の空き店舗の取得・活用のニーズもあり、さらには市街地へのコンドミニアム建設やまち中居住のニーズの高まりも予測されている。 ○ニセコ羊蹄エリアへの移住促進策、市街地への居住誘導策の検討が望まれる。	□移住者、事業参入者の受け入れ体制の充実 移住促進とビジネスサポート体制の構築 空き店舗や離農農家等の活用を視野に入れたニセコ羊蹄エリアへの移住促進、ビジネス展開サポート体制の構築を目指す。 まちなか居住の推進 長期滞在を含めた移住希望者への受け入れ対応としてまちなかへの居住を誘導し、賑わいと活力ある倶知安市街地の形成を目指す。	

地区	目標像	■ 地域の現状と課題・可能性	■ 取り組みの方向	■ 地域における今後の取り組み
ニセコ羊蹄エリア全体 4 / 5	仮）「通年型・国際・高原リゾート」 ～ニセコ羊蹄 癒しと交流のアクティブリゾート～	（４）景観法を背景とした地域全体のルールづくり ○リゾート地らしい魅力ある街なみ・景観 ・各地区のエリアアイデンティティを確立し、目標イメージを描き、それに基づいた街なみの形成、公共施設整備を行う必要がある。 ・地域住民、地権者とのコンセンサスを図りながら、それぞれの地区の実情に応じた街なみのルールづくり、景観づくりをめざすべき。 ○街なみ・景観に関するルール ・以前の中低層ホテル、ペンションを中心としたゆとりある街なみが形成され、そこには永年この地に居住する住民の暗黙のローカルルールがあったが、近年は外国からの参入が増え、その歩調が乱れつつある。 ・行政においては、ヒラフ地区の Center Village、樺山、泉郷の3地区を景観形成地区に指定し、景観形成基準の策定により、建築物の高さ、建蔽率、容積率等の基準値を示し、街なみ誘導策を講じているが、「要綱」による運用のために、法的な規制力が無いことが課題となって来た。 ・また、現行の基準は、雪処理等の隣地とのトラブルの回避などが中心であり、ニセコ羊蹄の魅力を高める景観まちづくりに踏み込んでいないことから限界があり、今後より、実効性のあるルールづくりが求められる。	□ニセコ羊蹄エリアとしての街なみ・景観に関するルールづくり： * 要綱による既存ルールを、法的規制力を持つルールへと強化していくことを目指す。 a) ひらふ地区と倶知安市街地におけるルールづくり ・注目を集めているひらふ地区のほか、今後いろいろな人たちの目が向いてくるであろう倶知安市街地駅前や国道5号線沿線において、ルールが後追いにならないように、問題発生に先行してルールづくりの準備を行う。 b) ルールづくりの話し合いの姿勢 ・今後、ひらふ地区では、数年でオーナーの半分以上が外国人になるかもしれないが、きちんと話し合いに参加してもらって理解してもらった上で一緒にまちづくりをしていくことを基本的な姿勢とする。 c) ルールの対象 ○最低敷地規模利用 ・ゆとりが失われた土地利用がなされるのは、敷地が細分化され規模が小さい(特にひらふ地区のB地区)ことが大きな要因であるため、土地利用の最低敷地規模限度の明確化を検討する。 ・同時にまとまった大規模土地の計画的整備に向けた計画づくりと規制誘導を検討する。 ○建物の形態・素材 ・それぞれの地区において、ふさわしい建物の形態、色、素材等を検討し調和のとれたものに統一していくことを検討する。 ○建設工事に関するルール ・スキーシーズン中(12月～3月)の建設工事は行わないことのルールづくりと、周知(特に建築主に対してが有効)を行う。 d) 都市計画法・景観法を活用したルール ・罰則規定のある法律上のルールとするため、準都市計画の指定や景観法の景観地区を取り入れるなど、都市計画法と景観法等、国の法制度を活用することを検討する。 e) アメとムチ(優遇措置と義務づけ)を使い分けた誘導策	□現行の要綱の適正運用の取組み ○地区ごとの具体的取り組みの推進 ・「ニセコひらふ美しい景観美観の会」などの活動の活性化(民間) ・清掃・美化活動の活性化(民間) ・エリアアイデンティティや目標像の検討(民間・行政) ・現行の要綱の運用状況の検証と協定内容の見直し等(行政・民間) ○適正運用誘導策の検討 ○都市計画法の活用を検討 ・準都市計画、用途地域の指定等の検討(行政) □景観法の活用のための取組み ○「景観&リゾートプラットフォーム」の継続 ・「羊蹄山麓広域景観づくり推進協議会」との連携(行政・民間) ・景観法検討部会の活動(行政・民間) ・「景観地区(モデル)WG&景観重要公共施設WG」の活動(行政・民間) ○「景観行政団体」に移行するための検討(行政) ・今後の「景観計画」策定へ向けての準備(行政・民間) ・「景観農業振興地域」への取組みの検討(行政・農業委員会等) ・「ニセコ町景観条例」の改正の検討(行政) - 景観行政団体： 景観法(2004年6月制定、12月施行)に基づく諸施策を実施する行政団体。景観行政団体は、景観計画の策定・変更と景観計画に基づく行為の規制の他、景観協議会を設立・運営、景観形成に取組むNPO法人や公益法人を景観整備機構として指定するなどの業務を行う。

地区	目標像	■ 地域の現状と課題・可能性	■ 取り組みの方向	■ 地域における今後の取り組み
ニセコ羊蹄エリア全体 5 / 5	仮）「通年型・国際・高原リゾート」 ～ニセコ羊蹄 癒しと交流のアクティブリゾート～	（４）景観法を背景とした地域全体のルールづくり	○雪対策： ・ニセコ羊蹄エリアは北海道有数の豪雪地帯であり、倶知安町は行政として以前より様々な雪対策を実施してきており、除排雪の体制の水準は高いとは言え、地区ごとに雪対策上の課題はまだ在る。 ○市街地駅前通り地区の課題 ・ロードヒーティング、流雪溝等の敷設。供用の条件の差による障害や住民の高齢化に伴う作業の困難さなどの課題がある。 ○ひらふ地区等の高原エリアの課題 ・堆雪スペースを考慮しない施設建設や、新規参入者の雪に対する認識不足から来る障害等の課題が具体化している。	○「みんなで親しむ雪条例」の周知・徹底 ・新規参入者への情報提供システムの確立（行政） ・「条例」～「要綱」のPR,啓蒙活動（行政） ○新たなルールの検討 ・高層建物や高密度建設等の最近の実情を反映したルールの検討（行政・民間） ・上記を含めた総合的な雪対策の議論の場の準備（行政・民間） ○堆雪・融雪スペースの確保の検討 ・河川利用のための河川管理者との協議等（行政） ・公共用地や遊休地の活用（行政） ・新技術による融雪システムの検討（行政・民間）
			□ニセコ羊蹄エリアにおける今後の雪対策の取り組み： a)「みんなで親しむ雪条例」の周知徹底 ・雪対策に関するルールは、平成 13 年に策定された「みんなで親しむ雪条例」によりルール化され、住民の方には理解を頂いているが、移住者や新規参入者にはしっかりと伝わっていないことから、倶知安の雪条例や建物を建てる際の雪に対する要綱などを事前にPRして雪対策の処理に対する啓蒙を行う。 b)既存のルールに加える新たなルールづくり ・堆雪スペースについてはお互いに協力して自分の敷地の空いているところに置き、一時堆雪して排雪するような暗黙で協力していた従前のやり方の部分を義務化するなどの新たなルールをつくるなど、地域で雪処理の対策をより充実させレベルアップする仕組みを検討する。 c)連携した雪処理対策の場づくり ・地域で発生する雪処理のトラブルの未然防止や解決策の検討を行う場として、北海道、町、民間で雪対策について確認する一つのテーブル（共同の検討の場）を毎年冬季シーズン前に設けることを検討する。 d)堆雪・融雪スペースの確保に向けた検討 ・尻別2号川や、おやじ川等、河川を利用した雪捨て場や、地熱などを利用した効率の良い融雪施設、有料の雪捨て場など地域で利用できる堆雪場の確保等を検討する。	○「みんなで親しむ雪条例」の周知・徹底 ・新規参入者への情報提供システムの確立（行政） ・「条例」～「要綱」のPR,啓蒙活動（行政） ○新たなルールの検討 ・高層建物や高密度建設等の最近の実情を反映したルールの検討（行政・民間） ・上記を含めた総合的な雪対策の議論の場の準備（行政・民間） ○堆雪・融雪スペースの確保の検討 ・河川利用のための河川管理者との協議等（行政） ・公共用地や遊休地の活用（行政） ・新技術による融雪システムの検討（行政・民間）
		○地域の街なみ環境の維持・管理・運営のルール ・立派なルールもしっかりと守られ、適切に運用されないと意味がない。ひらふ地区で運用されている現行の景観形成基準は規制力が働いておらず、今後守られない可能性があるとの危惧がある。 ○より実効性のあるルールづくりと共に、そのルールの実行・運営の手続き、仕組みづくりが必要 ○施設・建物等の建設時だけでなく、その後の維持・管理に関するルールも必要 ・屋根からの落雪処理・対策 ・不在所有者の廃屋物件処理対策 ・空地の雑草処理対策等 ○ルールに関する情報発信の窓口、発生した問題の処理に関する対応窓口の整備が緊急課題	□エリア全体としての街なみの運営・維持・管理の取り組み： a)ルールの遵守を推進する運営・維持・管理の総合的な組織化 ・雪対策やルールの実行・運営を行っていくうえでの総合組織をつくり情報発信や管理などを行う窓口を設置し対応していくことを検討する。 b)建物の維持・管理に関するルールの検討 ○草刈りルール ・不在地主を含む草刈り等の手入れといった管理のルール化を検討する。 ○落雪対策ルール ・落雪・落水箇所に「危険」という表示をするだけでなく、注意を促すことと同時に改善策や責任の所在を明確にさせることを検討する。 ○修景・植栽ルール ・庭の整理、木や花を植える等、個人でできる取り組みから、隣の家、そのまた隣の家というように全体へ繋げる。	○エリア全体を視野に入れた総合的な組織の検討 ・「羊蹄山麓広域景観づくり推進協議会」の今後の役割の検討（行政・民間） ・ルールとその運用に関する総合的な対応窓口の設置の検討（行政） ○地区ごとの運営組織の組織と活性化 ・「ニセコひらふ美しい景観美観の会」等の具体的活動（民間） ・地区ごとの実情を反映したルール運用・組織運営の検討（民間）

□ニセコ羊蹄エリアにおける今後の雪対策の取り組み：
a) 「みんなで親しむ雪条例」の周知徹底
・雪対策に関するルールは、平成 13 年に策定された「みんなで親しむ雪条例」によりルール化され、住民の方には理解を頂いているが、移住者や新規参入者にはしっかりと伝わっていないことから、倶知安の雪条例や建物を建てる際の雪に対する要綱などを事前にPRして雪対策の処理に対する啓蒙を行う。

b) 既存のルールに加える新たなルールづくり
・堆雪スペースについてはお互いに協力して自分の敷地の空いているところに置き、一時堆雪して排雪するような暗黙で協力していた従前のやり方の部分を義務化するなどの新たなルールをつくるなど、地域で雪処理の対策をより充実させレベルアップする仕組みを検討する。

c) 連携した雪処理対策の場づくり
・地域で発生する雪処理のトラブルの未然防止や解決策の検討を行う場として、北海道、町、民間で雪対策について確認する一つのテーブル(共同の検討の場)を毎年冬季シーズン前に設けることを検討する。

d) 堆雪・融雪スペースの確保に向けた検討
・尻別2号川や、おやじ川等、河川を利用した雪捨て場や、地熱などを利用した効率の良い融雪施設、有料の雪捨て場など地域で利用できる堆雪場の確保等を検討する。

○「みんなで親しむ雪条例」の周知・徹底
・新規参入者への情報提供システムの確立(行政)
・「条例」～「要綱」のPR、啓蒙活動(行政)

○新たなルールの検討
・高層建物や高密度建設等の最近の実情を反映したルールの検討(行政・民間)
・上記を含めた総合的な雪対策の議論の場の準備(行政・民間)

○堆雪・融雪スペースの確保の検討
・河川利用のための河川管理者との協議等(行政)
・公共用地や遊休地の活用の検討(行政)
・新技術による融雪システムの検討(行政・民間)

□エリア全体としての街なみの運営・維持・管理の取り組み：
a) ルールの遵守を推進する運営・維持・管理の総合的な組織化
・雪対策やルールの実行・運営を行っていくうえでの総合組織をつくり情報発信や管理などを行う窓口を設置し対応していくことを検討する。

b) 建物の維持・管理に関するルールの検討

○草刈りルール
・不在地主を含む草刈り等の手入れといった管理のルール化を検討する。

○落雪対策ルール
・落雪・落水箇所に「危険」という表示をするだけでなく、注意を促すことと同時に改善策や責任の所在を明確にさせることを検討する。

○修景・植栽ルール
・庭の整理、木や花を植える等、個人でできる取り組みから、隣の家、そのまた隣の家というように全体へ繋げる。

○エリア全体を視野に入れた総合的な組織の検討
・「羊蹄山麓広域景観づくり推進協議会」の今後の役割の検討(行政・民間)
・ルールとその運用に関する総合的な対応窓口の設置の検討(行政)

○地区ごとの運営組織の組織と活性化
・「ニセコひらふ美しい景観美観の会」等の具体的活動(民間)
・地区ごとの実情を反映したルール運用・組織運営の検討(民間)

(地区別の記述においては、ニセコ羊蹄エリア全体との重複分は割愛)

地区	目標像	■ 地区の現状と課題・可能性	■ 取り組みの方向	■ 地域における今後の取り組み
ひらふ地区	仮）高原の賑わいの街 ↓ アドベンチャー拠点　　↓	○リゾート地らしい魅力ある環境づくり ・傾斜地リゾート地としての景観の意識 ・傾斜地形を活かした回遊性の向上 ・景観に配慮した除雪車等作業自動車の駐車 ○冬期にも安全な道づくり ・車道の融雪はされているが、歩道の対策が遅れていて、非常に危険な状態であり、早急な改善が必要 ・冬季堆雪スペースを確保した敷地活用	□国際リゾート地にふさわしい環境づくり スキー滑走可能なセンタービレッジ内遊歩道ルートの設定 スキーをはいたまま滑走してひらふのまちなかを縫って降りていけるようなコースをセンタービレッジ内に設定し、楽しく回遊できる、いわゆる“スキーイン＆スキーアウト”のまちなみを目指す。 冬季の安全な道づくり ひらふ坂歩道のロードヒーティング化や、ひらふ～泉郷間の歩道の設置と除排雪の充実を中心に、冬期間における安全な歩行空間の確保を目指す。 街なみ景観の向上 ひらふ坂沿道の修景を中心に、リゾート地にふさわしい魅力ある街なみ景観の形成を目指す。	○スキー滑走可能なセンタービレッジ内遊歩道ルートの設定に向けて ・地区内回遊を検討する会を設立し、地権者の協力を得ながら、ルートの設定を行う。(民間) ・ルート設定に伴う安全対策、地権者折衝等の調整事務を行う。(行政) ○冬季の安全な道づくりに向けて ・ひらふ坂（道道）歩道のロードヒーティング化に向けた期成会を発足させ検討する。(民間) ・期成会の事務支援や北海道との調整等を行う。(行政) ○街なみ景観の向上に向けて ・既存のルールを景観法・都市計画法等を活用した規制力のあるルールへと強化する。(行政) ・「ニセコひらふ美しい景観美観の会」を中心に修景ルールを検討する。(美観の会) ・歩道のロードヒーティング化と合わせて無電柱化についても検討する。(民間)
		○不足サービス・施設の充実による魅力づくり ・核となる施設の不足 ・物販系店舗の不足 ・テイクアウト型の店の充実 ・冬季のスキー・ボード以外の楽しみ方提供	□サービスの充実による魅力づくり 核となる施設の整備 地区の交流の拠点となるような核施設の整備を目指す。 物販系店舗やテイクアウト型飲食店舗の誘致 特に外国人観光客のニーズが高い物販系の店舗やテイクアウト型飲食店舗の誘致を図り、賑わいあるショッピングゾーンの形成を目指す。	○核となる施設の整備に向けて ・ひらふ地区の将来的な土地利用計画をも踏まえたビジターセンター的核施設の整備検討を行う。(行政) ○物販系店舗やテイクアウト型飲食店舗の誘致に向けて ・地域資源を活用した新たな製品開発、販路開拓などの支援可能な「小規模事業者新事業全国展開支援事業（中小企業庁）」の活用を視野に入れ、地域の産業やリゾート地としての特性に結びついた物販系店舗の誘致を検討する。(行政・商工会議所)
樺山地区	仮）高原の農村地区 ↓ 農の光景エリア　　↓	○国道 3 4 3 号を軸に広々とした美しい田園風景が広がる ・転作によって毎年違った表情を見せる ○地域の魅力を生かした開発 ・ポツポツと建った建物の景観を生かす ○今後の乱開発の防止 ・ひらふ地区のオーバーフローによるスプロールへの危惧 ・問題が発生してからの後追い対策とならぬよう先だって対応	□地域の環境の保全とゆとりある環境の創出 農の営みを魅力としたのどかでゆとりある景観の維持 ひらふ地区のようなゆとりのない乱開発を未然に防ぎ、のどかでゆとりある農村の環境を大切に集落づくりを目指す。	○地域の環境の保全とゆとりある環境の創出に向けて ・既存のルールを景観法等を活用した規制力のあるルールへと強化する。(行政) ・既存の景観まちづくり団体を中心として、魅力ある景観形成・環境維持のための取り組みを推進する。(民間)

(地区別の記述においては、ニセコ羊蹄エリア全体との重複分は割愛)

地区	目標像	■ 地区の現状と課題・可能性	■ 取り組みの方向	■ 地域における今後の取り組み
倶知安町市街地区（駅前）	（仮） コミュニティ拠点 高原の玄関口	○ 後志管内の行政の中心、ニセコ羊蹄エリアの経済の中心であると共に、JR 駅やバスターミナル等のある交通の要衝 ○ JR 倶知安駅は将来伸延予定の新幹線の設置予定駅であるが、現況では、経営者の高齢化、大型店の郊外進出の影響などから空き店舗の増加が続き、市街地の顔としての賑わいの創出、魅力の向上が課題となっている。 ○ ひらふ地区を訪れる多くの外国人は、倶知安駅前、国道5号線沿いに関心が高く、受け入れゲートとしての駅前の魅力向上が求められている ○ 平成17年度より「倶知安町中心市街地活性化基本計画」に基づいて、活性化の取組みが続けられている。 ○ 平成18年度には「新幹線倶知安駅整備構想」が策定され、将来の新幹線接続を見据えた駅周辺整備の検討が始められている。	□ 中心街としての魅力の創出 交流拠点となるコミュニティ施設（まちの駅）の整備 市街地（駅前～5号線）を歩いて回遊する情報・交流の拠点としての施設（まちの駅）整備により市街地の活性化を目指す。 - 的確な情報把握とニーズに基づいた店舗構成 地域における的確な情報把握を行い、ニーズに基づいた商品構成、サービスの充実した商店により魅力的な商店街の形成を目指す。 - 修景ルールによる魅力的な街なみの演出 照明、暖簾、植栽など店舗前における修景、演出のルール化によってまちの顔にふさわしい魅力的な街なみづくりを目指す。 - 新幹線接続を視野に入れた駅周辺整備の充実 将来の新幹線整備を視野に入れながら、JR、バス等の広域交通の拠点としての駅周辺の整備・充実を目指す。	○ 交流拠点となるコミュニティ施設（まちの駅）の整備に向けて ・「魅力ある商店街づくり助成事業（（財）地域活性化センター）」の活用によるまちの駅整備を行う。（行政・商店連合会） ○ 的確な情報把握とニーズに基づいた店舗構成に向けて ・購買ニーズを把握し、情報を公開し助言する。（行政・商工会議所） ・ニーズに基づいた商品構成や業種転換を行う。（民間） ○ 修景ルールによる魅力的な街なみの演出に向けて ・地権者や地域住民によって構成されたルール等の検討組織を立ち上げる。（民間） ・検討組織の事務支援やルール有効化に向けた規制・支援制度等を検討する。（行政） ○ 新幹線接続を視野に入れた駅周辺整備の充実に向けて ・将来的な新幹線整備を視野に入れた駅周辺の整備計画を検討する。（行政） ・「まちづくり交付金（国交省）」の活用を視野に入れた都市再生の検討を行う。（行政）
		○ 人が生活している中心市街地を「情景」が美しくチャーム的な空間にして行くことが課題 ○ 魅力的な生活環境の創出 ・市街地における住環境の向上 ・「中心市街地活性化基本計画」との連携による地域のいとなみの健全化	□ 魅力的な生活環境の形成 総合的な都市計画・土地利用計画の検討 魅力的な生活環境の形成に向け、市街地周辺農地の有効活用や市街地内の土地利用の見直し等、将来ビジョンに基づく総合的な都市計画、土地利用計画を検討する。 - 市街地における住環境の向上 高齢化対策、少子化対策、コミュニティ形成、地域産業の活性化等の取り組みに資するまちなか居住を推進し、市街地住環境の向上を目指す。	○ 総合的な都市計画・土地利用計画の検討に向けて ・「まちづくり交付金（国交省）」の活用を視野に入れた都市再生の検討を行う。（行政） - 再掲 ○ 市街地における住環境の向上に向けて ・住環境施策に関する計画づくりを行う。（行政） - 再掲
花園地区	（仮） 自然共生エリア 高原の癒し地区	○ 森林を背景にのどかに広がる畑や牧場などの田園風景が美しい ・ポツポツと建った建物の景観を生かす ・自然との共生 ・田園風景の維持 ○ 地域の魅力を活かした開発 ・独断的な開発や周辺の乱開発の防止 ・他地区の動きを考慮した開発 ・	□ 地域の環境の保全と魅力の創出 のどかな田園風景の維持 リゾート開発に伴う乱開発を未然に防ぎ、のどかでゆとりある田園風景を大切にしたい地区づくりを目指す。 - 協調性のあるリゾート開発の推進 自然と人とが共生するいやしの空間を楽しめる地区づくりに向け、開発企業には十分な地域への説明の実施や他地区と連携した開発など、協調性のあるリゾート開発の推進を求めます。	○ のどかな田園風景の維持に向けて ・地権者や地域住民によって構成されたルール等の検討組織を立ち上げる。（民間） ・検討組織の事務支援や専門家による技術的支援、ルール有効化に向けた規制・支援制度等を検討する。（行政） ○ 協調性のあるリゾート開発の推進に向けて ・行政、地域が一体となって花園地域のリゾート開発の事前説明・情報公開を求める。（行政・民間）

（＊ニセコ町のエリアについては、ニセコ羊蹄エリア全体との関連で議論が行われましたが、今回の調査対象外であるため方向性までの記述にとどめます。ニセコ羊蹄エリア全体との重複分は割愛）

地区	目標像	地区の現状と課題・可能性	取り組みの方向
東山地区	食・工房・アクティビティ キーワード	○広々とした畑の中に建物が点在する牧歌的な風景 ○農産加工体験工房やペンション等が地域の魅力 ・ポツポツと建った建物の景観を生かす ・半日遊んでまわれる周遊型のエリア形成 ・レストラン施設の不足 ○個々の魅力づくり ・ペンション経営者の意欲奮起 ・手作り工房的エリアの形成・ ○西武グループを引き継いだアメリカ資本企業との連携 ・東山地区の環境と不調和なものとしないうように対話・交流・情報交換が必要	□のどかな牧歌的農村景観の維持や体験工房施設等の充実により、農と観光が融合した半日以上周遊して過ごせるエリアを形成していくことが望ましい。 ○取り組みの方向としては： ・のどかな景観を維持しそれを楽しむスポット（撮影スポット）を設定する。 ・地域の食材を使った料理を提供するレストラン施設を充実させる。 ・手作り工房的なお店を充実させる。 ・地域で連携し、ファクトリー的な統一イメージ・ルールづくり（色・看板等）を行う。 ・地域での統一イメージを持つとともに個性ある個店づくりを行う。 ・アメリカの企業と共に周辺施設との対話による地域づくりを進める。 ・ニセコ羊蹄エリアの他地区との相互連携により、宿泊滞在客対象の体験を入れる。 など
アンヌプリ地区	ペンション・ホテル キーワード	○周辺の自然環境と調和したペンション集落を形成 ○スキー人口の減少に伴う集客力の低下 ○ペンション経営者の高齢化に伴う沈滞 ○魅力ある環境づくり ・冬期中心からの脱却 ・個性的、独創的なサービスへの転換 ・飲食店や買い物の出来るショップの充実など ・歩いて楽しめる魅力の創出	□自然環境と調和した閑静な環境の維持、個性の集まったペンションや飲食店、ショップの充実等により、歩いて楽しむことの出来るエリアを形成していくことが望ましい。 ○取り組みの方向としては： ・個々のペンションにおいて○○づくり体験等の独自性のあるサービスに取り組む。 ・回遊して楽しめる飲食店・ショップを充実させる。 ・自然環境と調和した閑静でゆとりある環境を維持する。 ・他地区と機能補完し、広域的に連携したエリアづくりをすすめる。 など
昆布モイワ地区	温泉・癒し・もてなし キーワード	○他地区から離れた、森に囲まれた閑静な温泉郷 ○古くからの老舗の温泉宿があるが、経営者の世代交代や伝統の継承と新発想の融合などが課題・ ○エリアのイメージづくり ・温泉の魅力を生かしたエリア形成 ・自然景観の向上 ○個々の魅力づくり ・伝統と新発想の融合 ・素材を生かしたチャレンジ ・他の地区と離れた閑静な地の魅力を生かす	□自然に囲まれた閑静な温泉イメージをこの地区の魅力として活かし、地区内外の連携により、いやし、もてなしのエリアとして地区を形成していくことが望ましい。 ○取り組み方向としては： ・森林に囲まれた自然景観を維持・保全する。 ・いやし、もてなしの温泉施設としてのサービスの充実にこだわる。 ・伝統だけにこだわらず新しい視点、発想を受け入れた取り組みを行う。 ・地域のを最大限に生かした料理の提供にこだわる。 ・それぞれのこだわりの取り組みを地区内の連携及び他の地区と連携して行っていく。 など